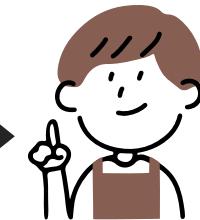


まつチャレ通信

2025
10・11

みなさん、こんにちは。

日ごとに秋が深まり、木の葉も色づき、朝晩の空気に冬の気配を感じる季節となりました。今号では、子どもたちが力を合わせて街をきれいにした「地域クラブ対抗ごみ拾い大会」の様子と、「第2回部活動地域移行検討協議会」での議論された内容を共有します。まつチャレの“今”をぜひご覧ください。



きれいな街を、自分たちの手で

— 地域クラブ対抗ごみ拾い大会にまつチャレ7団体が参加 —

「松本はきれいな街。ごみは落ちてないんじゃない？」

早朝から松本駅に集まった子どもたちから、そんな声が聞こえてきました。

10月19日（日）、**松本青年会議所主催の「地域クラブ対抗ごみ拾い大会」**が行われ、まつチャレの7団体（35名）が参加しました。制限時間は1時間10分。松本駅をスタートし、ゴールはあがた保育園です。



スタート前には、どのコースを選べばごみを多く拾えるか、各チームが作戦を立てました。一見するとごみはほとんど落ちていないように見えましたが、植え込みの陰やビルのすき間、風の吹きだまりなど、目の届きにくい場所には意外とごみがあり、チームは協力して集めました。

部活動の地域展開は、みなさんが安心して活動を続けられるという点に加え、**地域とのつながりを持ち、地域に貢献する意味**もあります。

自分のために、チームのために、そして地域のために頑張るみなさんを応援します。

【参加団体】

Black Jokers U15（優勝）・チーム六等星バドミントンクラブ・DBX NEXT・松本北東M-ONEベースボールクラブ・EYL FC・松本ACEボクシングジム・なないち剣道相愛会

NEW

まつチャレ一覧に検索機能が追加されました！

まつチャレサポートデスクサイトの「まつチャレ一覧」に、新しく**検索機能が実装**されました！

クラブ種目や月会費で探せるほか、対象学年・性別・志向・活動場所（フリーワード検索）でも検索できます。気になるクラブを、ぜひチェックしてみてください！



まつチャレ一覧に掲載の団体数（令和7年11月10日時点）
スポーツ48団体・文化6団体 合計54団体（内令和6年度補助金受給団体は12団体、
令和7年度補助金受給団体は 9団体）



まつチャレ通信では皆さまからのご意見・ご感想をお待ちしています。「こんな特集をしてほしい」などのご要望がありましたら、コチラから投稿をお願いします。→ <https://logoform.jp/form/N7tm/791864>



第2回地域移行検討協議会で議論された内容を共有します！

令和7年10月10日（金）に「令和7年度第2回地域移行検討協議会」を開催しました。

当日の資料および議事録は、市のホームページに掲載していますので、ぜひご覧ください。

● 休日部活動の移行状況は約3割（運動系）



運動系部活動の休日地域移行は全体の約3割で、夏季大会終了後には3年生引退を契機に同程度が地域クラブへ移行しています。これは、学校単位での活動から新たな体制へスムーズに移行できる現場の判断によるもので、今後は各競技の新人戦終了に合わせ、さらに地域移行が進む見込みです。

文化系部活動では約半数が休日活動を行わず、美術部や演劇部で特に顕著です。吹奏楽部や合唱部は来年1～2月のコンクール終了後に地域クラブ化が進む見通しで、文化系も徐々に地域移行が広がると予想されます。

今後、生徒個人にアンケートを実施し、希望するクラブに実際に移行できているかを調査する予定です。

● 国が検討する「認定地域クラブ制度」への対応は？

文部科学省では、学校部活動の教育的意義を継承・発展させる地域クラブの認定制度を検討しています。要件は教育的機能の継承、活動時間・休養日、低廉な参加費、複数指導者による安全な運営、規約・会計の透明性、学校連携などで、認定を受けると公的支援や大会参加の円滑化などのメリットがあります。

一方、松本市は「まつチャレ」として届出制度を採用しており、各クラブが主体的に運営し、規約や計画を整備して市に届け出ることで透明性を確保しています。今後は現場の実態に即した柔軟な認定制度の導入も想定し、届出クラブの認定取得や保護者への周知の在り方について検討していきます。



● 美術部の今後 — 自由に創作できる居場所 —

本年度、市内中学校美術部所属生徒を対象に、活動継続の意向や希望する活動スタイルを把握するためアンケートを実施しました。回答者は235人（回収率48.6%）で、絵を描くことや友人との交流、ステージバック制作など、多様な活動を楽しんでいることが分かりました。

今後、平日・休日に地域クラブとして活動を継続したいとの希望が多く、学校の美術室や美術館、ワークショップなど多様な場所・方法での活動を望む声もありました。生徒は「自由に創作できる居場所」を重視しており、不安としては新しい環境や指導者、活動時間の調整が挙げられました。

今後は校内における「放課後時間の活用」や先行事例の参考、地域資源の活用を通じて、多様な表現活動に取り組める環境整備を進めていきます。



● 送迎の負担を軽減するために — 自転車の利用を推進 —



平日の地域クラブ活動に参加する生徒が増えることが見込まれるため、移動時間を短くし、活動時間を確保する観点から、自転車の利用を推進します。従来は帰宅後に自転車で移動するか、保護者の送迎が中心でしたが、本市では活動場所が広域で時間も多様なため、現時点で公的な送迎支援は困難と考え、自転車通学を一定の条件で認める方向で進めます。

条件には整備済み自転車の使用、ヘルメット着用、保険加入、交通ルールの遵守、指定駐輪場の利用など安全面の配慮を含みます。移動中の事故はスポーツ安全保険で補償され、他者への損害に備えた自転車保険の加入も必須です。

利用希望者は学校への申請と承認後 начнётся, 今後は利用状況に応じて駐輪場の拡充も検討します。また、年に1回は交通安全教室を各校で実施するなど、安心して安全に自転車利用できる環境を整えていきます。